



駒澤会だより

第44号

令和8年7月30日
駒澤大学駒澤会 発行

会長就任のご挨拶

駒澤会10代会長

山田直重



令和8年5月16日に開催されました駒澤大学駒澤会総会におきまして、駒澤会の会長に就任する大役を仰せつかりました。駒澤会に入会してから16年が過ぎました。自身の仕事の方では定年退職を迎えました。発足から55年となる伝統ある駒澤会の会長就任ですから責任の重さを痛感いたしております。

駒澤会は、昭和46年3月駒澤大学卒業式後の父兄会（現教育後援会）メンバーの会合でその後の相互の親睦の維持と、奨学金制度をもって在校生への支援を実施することにより駒澤大学発展に寄与できると「七一会」を結成したことから始まります。その年10月に、さらに多くの関係者に呼びかけられ「七一会」を改め「駒澤会」が誕生しました。そこから奨学金制度確立を期して関係各位が基金整備に尽力され、昭和57年駒澤大学開校100周年となる年より在校生へ奨学金給付が実施されました。そこから今日に至るまでに累計で1200名を超える学生への奨学金給付が継続しております。駒澤会設立ならびに基金整備に尽力された方々に深く感謝申し上げます。また会員皆さまのご支援に感謝を申し上げます。

駒澤大学建学の理念に「行学一如」があり「仏教の教えと禅の精神」などの言葉があります。これらの言葉はここに集う皆さまに浸透し、社会に対して力を発揮されております。仏教の教えにある「智慧と慈悲」や「縁起」などは、これぞ駒澤会ではないでしょうか。自身を振り返っても会員の皆さまと交流を重ねることで他では得られないものを頂いていると実感しております。

私はこの伝統ある駒澤会がこれからも発展し続けるよう努力を重ねる所存です。この先を見据えると、駒澤会継続のため乗り越えなければならない課題がありますが、在校生支援の継続は意義深く大切なことであると信じております。駒澤大学発展のために、また駒澤会発展のために今後ともご指導ご鞭撻ご協力を賜りますよう心よりお願い申し上げます。最後に皆さまのご健勝とご発展を祈念いたします。